

【教科名】有機化学 Organic Chemistry II <履修単位科目>						
学年	学科	単位数	期間	開設週数	時間/週	総時間
3	物質化学工学科	(必修)2	通年	30	2	60
【担当教員】竹原 健司 【教員室】 7号館2階 【TEL】7241 【e-mail】takehara						
【授業目的と概要】 生物の体を構成する物質であると同時に、我々の身の回りでプラスチック、医薬・農薬、香料、燃料等として利用されている有機化合物について系統的に講義する。2年次の「有機化学」からの継続であり、芳香族化合物、有機ハロゲン化合物、アルコール・フェノール・エーテル、カルボニル化合物の構造や物性、反応を中心に学習する。「高分子化学」や「生命化学」、「有機工業化学」と関連する科目である。						
【授業の進め方及び履修上の注意】 授業中に演習・小テストを実施し、理解を深めさせると共にその理解度を見る。長期休暇時にはレポートを課す。 1年次の「化学」や2年次の「有機化学」の内容、特に電子と化学結合、電気陰性度と結合の極性、混成軌道と有機分子の構造に関して理解をしておくことが必要であり、前期の最初に小テストを含む復習を行う。						
授業項目	内 容					時間
【前期】						
導入・復習	ガイダンス、					2
	2年次の復習、基本(重要)概念の再確認、小試験					4
芳香族化合物	ベンゼンの構造と共鳴					2
	芳香族求電子置換反応					8
中間試験						
ハロゲン化アルキル	構造と性質、合成					2
	求核置換反応(S _N 1、S _N 2 反応)					6
	脱離反応(アルケンの生成、E1、E2 反応)					4
問題演習	補充問題の解答解説					2
期末試験						
【後期】						
立体化学	立体異性体と鏡像、キラリティー、旋光性					4
	絶対配置表示、ジアステレオマー、キラル分子の利用					4
アルコール、フェノール、 エーテル	構造と性質、酸性度、合成					4
中間試験	アルコール・フェノールの反応、エーテルの反応、エポキシド					6
カルボニル化合物 (ケトン・アルデヒド)	構造と性質、合成					4
	カルボニル基の分極と求核付加反応					8
定期試験						
【達成目標】				【教科書】		
・種々の有機化合物の構造や性質、反応を官能基の特徴としてとらえ、説明できること。				有機化学概説(第6版)		
・求核置換反応、脱離反応、求核付加反応など代表的な反応について、反応機構や反応の特徴を説明できること。				東京化学同人、John McMurry 著		
・分子のキラリティーを認識し、その構造的要件や性質を説明できること。				『有機化学』ワークブック		
立体異性体の絶対配置を決定できること。				丸善株式会社、奥山 格著		
・基本的な有機化合物の構造と名称が書けること。				【参考書】		
				多くの著者による「有機化学」が図書館にある。		
JABEE 教育目標						
準学士課程目標		(B)				
成績 評価	【評価基準】			【オフィスアワ - 】		
	中間試験・期末試験・定期試験、小テスト・レポートによる総合評価で60点以上を合格とする。			水曜日 午後3時から5時		
	【評価方法】					
	中間、期末および定期試験 70%、小テスト・レポート 30%					